

平成30年度 自己評価・学校関係者評価

平成31年3月25日
静岡なかはら幼稚園

1 幼稚園の教育目標

いきいきと やる気を持って 遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1、 明るく健康な子に（あいさつ、おはよう・ありがとうなど）
（体をいっぱい使ってあそぼう）
- 2、 自立心があり周りの人のことをよく理解できる子に
- 3、 身の回りの事物に関心を持つ子に（自然との関わり、園外に多く出る）
- 4、 言葉をよく理解して上手に使える子に（お話をしっかり聞く、話す）
- 5、 積極的に表現できる子に（自分の思いをことばや絵に）

3 評価項目の達成及び取組状況

※関係者評価の欄に記入してください。

よい 努力したい
A - B - C - D 4段階

評価項目	結果	理由	関係者 評価	意見
① 保育の 計画性	B	月案、週案、日案を立ててはいたものの、どうしても追われてしまう感じは否めず、大きな行事においては、早い時期での立案や準備の必要性を感じながらも、実際には間際になってしまうことが多かったように思う。保育は、計画通りに進まないことも考慮しながら、計画を立てていく必要があると思われる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を一つのテーブルに乗せて話し合ってください。よい結果を期待しています。 ・先生方の負担が多いと思うが、早めの準備を。
② 保育の あり方 子ども への対 応	B	担任は、一人一人の子どもをよく見て、一人一人に合わせたかかわりをするよう努力してくれていたと思う。しかし、個々の育ちや問題が、担任や学年担当者しか把握していないことが多く、園全体のこととして捉えることができないことが多々あった。子どもの育ちや育ってきた環境、個性等について、多くの視点から観察をし、意見交換をし、より子ど	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の負担が少しでも軽くなる方法があればいいと思う。 ・一人一人の個性を大事にしながら、色々な視点から子どもを知る努力を続けて欲しい。 ・先生方の苦勞が感じられま

		もを知るようにしていきたい。		す。
③ 教師としての資質能力、適正など	C	特に経験の浅い職員には、積極的に研修へ参加し様々なことを学び、保育者としての資質はもちろんのこと、人間性を高めて欲しいと願う。本年度も、経験のある職員への業務負担が多かったように感じる。また、報告・連絡・相談の連携がうまくできていないことも多かった。今後、職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考えながら、発信することを忘れずに、協力し合えるよう、コミュニケーションを深めていきたい。また、報告・連絡・相談・確認を密にしていきたいと思う。また、危険予知や危機管理に対する意識をきちんと持てるようにしていきたい。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・他人任せにせず、自分のことと考えることによってより向上心が高まってくると思います。危険予知や危機管理に対する意識は大変重要です。 ・職員の業務を考えるとやむを得ないが、報告・連絡・相談は今後も大切にしてください。 ・先生方がうまく連携する方法がシステム化されると思います。
④ 保護者への対応	B	認定こども園4年目となり、園の方針を理解し協力して下さる保護者が増えたように感じる。こども園という性質上、1号認定児と2号認定児で、保育時間の違いや行事代休等で差を感じる保護者も出てきているように感じる。園の考えを理解して頂くとともに、よりよい方向に進んでいけるよう努力をしていきたい。また、園の方針は守りつつ、保護者からのご意見を参考にさせていただきながら、保育を進めていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人は自分がかわいいという考えから離れられないようです。大変ご苦労されたことと思います。 ・認定こども園として、これからは保護者の理解を得ながら、園全体でよい方向に進めてください。 ・方針というよりは、制度の問題だと思われることが多いと思う。そのことを理解してもらえる方法が必要だと思う。
⑤ 地域の自然や地域との関わり	B	聴覚特別支援学校幼稚部との交流保育、中学生の体験学習の受け入れ、公園清掃等、地域の方とのかかわりが持てるよう取り組んできた。また、田植えや稲刈りで他園と交流をすることができ、貴重な経験をすることができた。昨年度に引き続き、大里中学校3年生の家庭科の授業を受け入れた。 乳児組は、園外への散歩の機会が多くあったが、幼児組は散歩に出掛けたり畑に行ったりすることがほとんどなく、見直していきたい点である。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部との交流保育、体験学習の受け入れ、地域とのかかわりは、とてもいいことです。今後も大いに進めて欲しい。 ・外との交流は、とても大切な経験だと思います。

⑥ 研修と研究	A	幼稚園・保育園問わず、様々な研修会に参加させていただけるため、広い分野で学ぶことができたと思う。研修で得た知識や情報を再確認し、共有したり提供したりすることができた。せっかく得た知識や情報を今後さらに、保育に生かしていけるようにしたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務が多い中、研修も大事にして園児の為に対応してください。 ・研修での成果を期待します。
⑦ 外部アンケート	A	未就園児対象の催し物では、今年度は参加者が少なかったように感じた。しかし、参加して下さった方々は「楽しかった」「こういう場はありがたい」「家でできないことができて良かった」等の感想をいただいた。運動会や発表会、ゆめのひろば（総合活動）等では、「青組の園児のように、我が子も成長してほしい」「見ていて楽しく嬉しい時間を過ごせた」「保護者同士が、席を譲り合って、気持ちよく参観することができた」「子どもが、とっても楽しんでいた」「全学年を見ることで、子どもの成長をより感じられる」等の感想をいただいた。これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出に残る行事活動、ありがとうございました。 ・未就園児対象は、これからも継続して、さらに運動会や発表会等、大変だと思いますが、園の為に継続してやってください。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

各学年とも重点課題のねらいは、ほぼ達成できたように思う。劇遊びやごっこ遊びでは、表現する楽しさを感じてくれたようだが、お話を聞くことや観ることが苦手な子も多く、身の周りの物事や他人に無関心ではない子を育てていきたいと思う。また、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することや、遊びの中で自分で考えて試してみることを大事にしていきたい。季節の自然現象に出会ったり、園外保育で貴重な経験をしたりし、様々な経験をしてきたが、ここ数年課題と感じている、歩くことに慣れていない子が多いということを念頭においての保育の実現が難しかった。職員が共通意識を持つようにしたい。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	子ども達に様々な経験をさせたいと願うあまり、幼児は特に行事に追われてしまうこともある。このことは毎年頭を悩ませながらも、いまだ改革ができていない。今の子ども達にとって、大切なことは何かを今一度考えたい。また、全職員の教育・保育観、保育に対する姿勢、行事に対する具体的なイメージの統一がより一層望まれる。
園外保育	園バスだけでなく、徒歩での園外保育も積極的に取り入れていきたいと思いつつも、ほぼ実施することができなかった。園バスで出掛ける園外保育も、教

	<p>育課程を考えるうえで大切なことだと感じるが、遠くに出掛けるだけでなく、園の近くで散歩を楽しむことも、考えていきたいと思う。</p>
ICT化と仕事の効率化に向けて	<p>業務軽減の為に昨年度より導入したICTシステムだが、まだ上手く活用することができず、業務軽減にはつながっていない。経験のある職員の育児休業や中途退職者が多く、常に人手が足りなく非常に厳しい状況であった。ICT化では補うことができない仕事については、乳幼児問わず全職員で協力し、仕事の効率化を図るよう、努力したい。また、仕事の優先順位を考えたり、教材研究をきちんとしたうえで保育準備を進めたり、仕事が無駄にならない努力・工夫をしたい。</p>
評価委員からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人手不足はどこも同じで、今後も深刻になると思われる。できる範囲での待遇改善など、あらゆる手を尽くして園の発展に努力してほしい。 ・良い方向に変えていくには時間がかかることが多いと思いますが、がんばってください。 ・先生方は、大変熱い思いをもって保育にあたっていると思います。本年度の重点課題に向けて、日々園児に慈愛を持ってお育て下さっていると感じております。自己評価を通して、全体的に達成度は高く、今後ますますの自己研鑽に励まれますようお願いしています。